

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった、心身ともに健康な中学生を育成する。

「生徒行動指針」 ○自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	義務教育である小中学校で一番に身に付けさせなければならないことは『生きる力』の育成である。大海原を自らの足で歩む力である。そのために必要な体験の場を、意図的・計画的に提供し、望ましい集団活動を通して自己及び集団の向上を図る意識を育む。また、そのために必要な基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身に付けさせる学校を目指す。
○児童・生徒像	○病気に負けない心身ともに健やかな体を身に付けた生徒 ○習得した知識を実生活に活かすような行動を自ら行い、意欲的に経験を積み上げていく生徒 ○自分の力を地域や家族、学校・学年・学級のために進んで役立てようとする生徒
○教師像	○生徒・保護者・地域の信託に応える教師 ○自らの生き方をもって生徒を導く教師 ○組織として迅速に動くことのできる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- (1) 生徒は元気にあいさつができ、落ち着いた生活を送っている。
- (2) 「ハイオアシス運動」をはじめとした生徒会活動が、良い意味で伝統を継承し、実践されている。
- (3) 地域や近隣幼保小高、PTAとの連携が定着し、生徒の活動の場が多く設けられている。
- (4) 学校行事に熱心に取り組み、達成感も高い。

2 前年度の成果

- (1) 区学力調査において、3科全体の達成率が61.8%と向上した。
- (2) 開かれた学校づくり協議会主催の「サタデースクール」が円滑に運営され、自学自習の場を提供できた。
- (3) ジョイントコンサートをはじめとして、近隣幼保小高との連携が円滑に行われ、生徒の健全育成に資している。
- (4) 地域浄化活動など地域・家庭・学校が連携して行うボランティア活動が伝統として継承され、生徒に地域の一員としての自覚を生みだしている。

3 前年度の課題

- (1) 区学力調査の全体での通過率は向上したが、教科により通過率にばらつきがあり学習内容の習得が十分でないところがある。
- (2) 学習した知識が、学力調査や定期考査までで終わってしまい、「知の喪失」に陥っている。
- (3) 集団に適応できず、教室には入れないでいる生徒が少なからずいる。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	◎	◎	○
2	不登校・不適応対応		○	◎	◎	◎
3	生徒指導の充実	◎	◎	◎	◎	◎

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
各種学力調査の結果向上と家庭学習の定着		到達度確認テスト 63.0% 令和3年度目標通過率 65.0%		到達度確認テスト(7月)63.7% 到達度確認テスト(3月)正答率 55.7%		・コロナ禍で授業時数の確保を優先するあまり、授業の進度が速く学習内容の定着に不安が見られる。3月の到達度確認テストでも正答率が伸び悩んでいる。教科ごとのばらつきも見られ、補習等、徹底する必要がある。 ・学習の定着状況と具体的な取り組みは6(1)を参照。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	授業改善	全教科	通年	【取組内容】 指導案の書式を統一し、導入・展開・振り返りを全ての授業で実践させる。 【ねらい・目的】 各授業における生徒の学びの確実な定着を図る	生徒による授業評価	「学習目標の提示をしている」と「まとめを行っている」の項目の肯定的回答85%	93.1%	全教科平均すると9割を超える生徒が肯定的な回答をしているが、教員が伝えたつもりでいても生徒に伝わっていない実態が見られる。授業改善に向け、更に取り組みを重ねていく。	○

2 継続	家庭学習の習慣化	全教科	通年	<p>【取組内容】 生徒に家庭学習ノートを持たせ毎日提出させる。</p> <p>【ねらい】 家庭学習の習慣を身に付けさせる。</p> <p>【目的】 基礎・基本の確実な定着</p>	担任が提出状況をチェック	年度末における提出率80%	86%	家庭学習ノートを活用した家庭学習の習慣化はかなり達成されている。一方で家庭学習強化週間等ではノート提出をするが、強化週間以外は提出しない者や、未だ家庭学習が習慣化しない生徒が若干いる。補習等で学力を保障していく必要がある。	○
3 継続	JUT	国語 社会 数学科 英語	通年	<p>【取組内容】 委員会活動等とのバランスをとりつつ放課後の30分間を補充学習に充てる</p> <p>【ねらい】 基礎学力の定着並びに得点力の向上</p> <p>【目的】 学習のつまずきを解消するとともに、習得した知識の活用力を高める</p>	都学力調査及び中1勉強合宿参加者数	都学力調査における平均正答率を全教科で上げる	中1勉強合宿中止 都学力調査中止	放課後の補習は、学習の定着に課題のある生徒を指名して各学年で実施した。学校として統一した取り組みにできなかったことが課題である。	○
4 継続	学習コンテスト	国語 数学 英語	各教科 年1回	<p>【取組内容】 国数英の3教科で基礎的な知識の定着を図る学習コンテストを実施</p> <p>【ねらい】 学習意欲の喚起</p> <p>【目的】 努力すれば結果が出ることをわからせる。</p>	3科の学力コンテスト	3教科とも1回目での合格率85%以上	実施せず	今年度は新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校措置のため、授業時間確保を優先し、学習コンテストの時間を設けなかった。	△

5 継続	サタデー スクール	全教科	通年	【取組内容】 土曜授業のない土曜日に 自学自習による補習 【ねらい・目的】 自学自習の習慣を身に付 けることで家庭学習の定 着を図る	延べ登録人数	60人以上	年間9日間実施し、 延べ98人の参加	今年度は新型コロナウイルス感染拡大により、緊急事態宣言発令中は実施がなかなかできなかった。そのような中で、17名が登録をし、延べ98名の生徒が参加したことは嬉しい。	○
---------	--------------	-----	----	--	--------	-------	-----------------------	--	---

重点的な取組事項－2	不登校・不適応対応
-------------------	-----------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校出現率の減少	不登校出現率5%以下	不登校出現率4.4%	個々に必要な支援を行うことで関係機関と繋がるようになった。	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校対応教室の設置	不登校対応教室の設置	不登校や登校渋りで教室に入れない生徒の適応訓練と学習支援のための別室指導の部屋を作る。	支援用の別室は8月に設置でき、スマイルルームと命名した。指導にあたる非常勤職員も配置し、8月より運用を開始した。	スマイルルームの運用について、教職員の共通理解が十分でない。利用のルールのお知らせが課題である。	○
不登校・不適応生徒を受け入れる学級の雰囲気作り	Hyper-QUにおける学級満足度70%以上	小中連携研究を通して、9年間を見通した学級活動の充実を図り、学級の中に生徒の居場所を確保するとともに、各学級・学年で生徒の活躍する場を設定し、生徒の自己肯定感と自己有用感を高められる学級経営を全教員ができるようにする。その際、特定の手法にとらわれず、各教員のスキルや学年・学級の実態に即した学級活動を工夫する。	第2回Hyper-QUにおける学級満足度 53%	新型コロナウイルスの影響で小学校との連携は行うことができなかった。また、様々な教育活動が制約を受ける中、人間関係を構築する機会が減った事による小さなトラブルは散見され、学級満足度も濃尾悩んだ。	△

不登校生徒への対応の強化	不登校出現率5%以下	SC・SSWを活用し、必要な関係機関との連携を図りつつ、生徒の教室復帰を目指す。	不登校出現率4.4%	多くの生徒が様々な関係機関と連携でき、それぞれの事情に応じた支援を受けることができている。SC、SSWも有効に機能し、生徒や保護者の悩みに寄り添うとともに必要な関係機関との接続もうまくいっている。	○
全校体制での不登校・不応適生徒への支援	特別支援委員会年35回以上開催	毎週木曜日の2校時に特別支援委員会を実施し、不登校・不応適生徒の情報の共有化を図る。支援を必要とする生徒への対応は全校体制で行う。	毎週木曜日の2校時に実施	特別支援委員会が定例化し、特別な支援を要する生徒や不登校傾向の生徒に対する情報の共有と個別支援の推進ができた。	◎

重点的な取組事項－3	生徒指導の充実
-------------------	---------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒の内面から学校生活を豊かにしようとする姿勢を育む	問題行動調査における問題行動発現率の減少	どの学年も落ち着いた学校生活を送っており、問題行動は極めて少ない。	どの生徒も非常に落ち着いて生活をしており生活指導上の問題行動は見られない。	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめの早期発見・対応	Hyper-QUにおける侵害行為認知群10%以下 学級生活不満足群15%以下	QUを活用し、いじめの早期発見に努め、発生したいじめについては「いじめ防止基本方針」に基づく校内「いじめ防止委員会」を中心に、全校で組織的にその解決にあたる。また、生徒会活動や学級活動を通して、生徒自らの手でいじめを抑止しようとする態度を育てる。	Hyper-QUにおける侵害行為認知群12% 学級生活不満足群19%	いじめの重大事案は発生していない。しかし、様々な集団活動が制約で実施できなかったため、人間関係上の小さなトラブルはむしろ増加し、結果はその表れであると考えられる。	△

生徒の自尊感情を高める指導の徹底	Hyper-Q Uにおける非承認群 20%以下	全教員の生徒指導力の向上を図る。厳しい指導と威圧的な指導を混同させない。特に、学級経営に視点をあて、どの学級においても生徒が楽しく学び、楽しく生活できる環境を醸し出せるように努める。	Hyper-Q Uにおける非承認群 16%	今年度、足立区教育委員会指導力向上中核校の指定を受け、学級経営の手法を見直し、生徒にとって居心地の良い学校・学級づくりを通してキャリア教育の充実を図った。教員が個々の生徒の「良さ」を認めるだけでなく生徒相互で互いの良さを認め合う雰囲気を作り出されるようになってきた。	○
体罰の根絶	体罰発生件数0	年間を通じて教職員のサービスに関する研修を繰り返し、生徒の内面に届く指導ができるようにさせる。そのために必要な研修を意図的・計画的に実施する。	体罰発生0	全教育活動を通して、教員が生徒の良さを認め褒める指導を展開していることで体罰事案は発生していない。引き続き研修は進める。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【課題】

- ・ 1年生国語では、正答率が57.4%で区平均より5.9ポイント低く、学習の定着状況に課題が見られる。特に文法・敬語・表現の定着の度合いが低い。
- ・ 2年生英語では、正答率が48.4%で区平均より7.4ポイント低く、学習の定着状況に大きな課題がある。特に書くこと、中でも英作文、語順整序問題、語彙・語法問題についての習熟の度合いが低い。

【解決の方向性】

- ・ 1年生国語の授業では、文法事項の練習時間を増やし、文章の中で実際に使われている語句の意味を考え、似た意味を表す別の言葉に言いかえてみるなどの学習活動を設定する。また、比べ読みを活用するなどし、自分なりの考えをもたせ、与えられた条件や自分自身の体験等を活用し、表現する意識を高めるとともに互いに発表し伝え合う時間を増やす。
- ・ 1年生国語の補習では、JUTの際に学校で体験したことや家族との体験を通して感じたことを自分の言葉で書くよう指導する。
- ・ 2年生英語の授業では、書くことについては、与えられたテーマで3～5文の英作文を帯活動で実施していく。また、どのような場面でその英文が使われるかを授業内でより具体的に指導し、理解させるだけでなく書かせることもしていく。コミュニケーションを重視した活動だけでなく、文法事項を反復練習させる時間、学習内容を振り返る時間も多くしていく。
- ・ 2年生英語の補習では、JUTの際に新出単語や新出文法を繰り返し学習させ定着を図る。

【総括】

本校の多くの生徒は、「授業がわかる」、「授業が楽しい」と感じている。一方で到達度調査を見ると学習の定着が十分であるとは言い難い。新型コロナウイルス感染拡大により、様々な学習活動が制約を受け、ペアワークやグループワークを通して学習の定着や学習内容をより深く理解させることが困難であった。そのような中でも、どの教科においても区平均と大きな開きがなく一定の成果が見られたことには安堵しているが、それぞれの教科において、更なる結果の分析を行い、習熟の程度が低い部分においては、授業・JUT・個別指導を通して学習の定着を図っていく。区平均と5ポイント以上開きのあった2教科2領域については、上記記載の対策を行う。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、生徒は様々な場面で我慢を強いられていますが、そのような中でも多くの生徒が「学校が楽しい」と言っていて通ってきております。授業についても、「たのしい」、「わかる」という生徒が9割を超えています。しかし、生徒のそのような感覚が必ずしも学習内容の定着につながっていない部分があることは否めません。教員一同、生徒の学習の習熟の程度をしっかりと把握し、学習した内容がきちんと身に付くよう、更なる授業改善やJUT、個別指導に努めてまいります。また行事においては、コロナ禍でも実施可能な方法を自ら考え実践してきました。特に運動会の代替行事である「12アオリピック」は、体育委員を中心に生徒がネーミングから運営方法までを考えて実施しました。コロナ禍の制約があったが故に、これまで十分に実践できなかった生徒による自主的活動が行えました。新型コロナウイルス感染状況が改善しましたら本校教育活動を順次公開してまいりますので、引き続きご支援賜りますよう、よろしく申し上げます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

新型コロナウイルス感染拡大の影響により様々な教育活動が制約を受ける中、感染拡大防止を図りつつ可能な限り教育活動を生徒に提供してきた。生徒もよくそれに応え、非常に素晴らしい姿を見せてくれた。今後の新型コロナウイルス感染状況は予測不能だが、状況を見極めつつ、教育活動の正常化に努めていく。

今年度より、足立区教育委員会指導力向上中核校の指定を受け、キャリア教育の推進と特別活動の充実に取り組んでいる。全ての教育活動をキャリア教育の視点で見直し、変化の激しい社会を生き抜く力を生徒に身に付けるべく、全教員で授業改善に取り組み学級を生徒にとって居心地が良く安心して学べる場にするよう研鑽に励んでいる。